

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 93
平成30年

平成30年度 全国大会開催案内

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
庭園文化研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成30年度 日本庭園学会全国大会 開催案内

平成30年度日本庭園学会全国大会を、下記のとおり開催いたします。会員のみなさまの大会への参加を、心よりお待ち申し上げます。

記

■ 日程

平成30年6月16日(土)～平成30年6月17日(日)

■ 概略

6月16日(土) 現地検討会
情報交換会

6月17日(日) 研究発表会および総会
シンポジウム

「全国各地に残る庭園群の現状、
および保全と活用」

■ 会場

現地検討会 松代城下町に残る庭園3カ所
真田宝物館、象山地下壕

情報交換会 こむぎ亭(長野市松代町御安町1129-2)

研究発表会、総会、シンポジウム

サホ-マツコ (長野市松代町163-9)

■ 参加費

学会員 2,000円

非会員 4,000円

※ 学生は、会員の場合1,000円

非会員の場合は2,000円とします。

※ 大会参加費については、1日のみの参加でも左金額を徴収します。

資料代 1,000円

※ 大会参加者には参加費内でお渡しします。

別途資料を購入する場合の金額です。

見学会 600円(入場料など)

情報交換会 4,500円程度

■ 参加申し込み

16日(土)の現地検討会や情報交換会は、都合上、可能な限り、メールやFaxで、以下の項目について、6月12日(火)までに申し込み願います。なお、電話での問い合わせには可能な限り対応いたしますが、不在の場合には、メールかFaxでお願いいたします。

1. 参加者氏名
2. 当日、連絡の取れる連絡先
3. 参加するプログラム(現地検討会、情報交換会)

<問い合わせ>

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話: 042-376-8602 メール: miya@keisen.ac.jp

■ 参加にあたって

- ・長野駅から松代町まで、バスで約 30～40 分かかります。
- ・松代町内には宿泊施設がたいへん少なく、長野駅前にはビジネスホテルが多数あります。駅前もご利用ください。

<現地検討会及び情報交換会 申込先>

佐々木 邦博 (日本庭園学会 全国大会運営委員長)
 メール ksasaki@shinshu-u.ac.jp
 電話・Fax 0265-77-1500 (直通)

<問い合わせ>

宮内 泰之 (日本庭園学会 総務担当)
 電話 042-376-8602
 メール miya@keisen.ac.jp

平成30年度 日本庭園学会全国大会 現地検討会・シンポジウム

■ 日時と場所

現地検討会 平成30年6月16日(土)
 真田新御殿 / 旧横田家 / 山寺常山邸 / 他
 シンポジウム 平成30年6月17日(日)
 サンホール マツシロ

■ 大会テーマ

「全国各地に残る庭園群の現状、および保全と活用」

趣旨文

古くから形成されてきた町には、寺社や武家屋敷などに、庭園が造られていました。全国大会が開催される長野市松代町は真田藩の城下町であり、武家屋敷地区には池庭が数多く残され、庶民の庭として現在まで親しまれてきています。しかし、近年、減少しつつあるのが実態です。そこで、全国各地に残る庭園群を取り上げ、その現状や課題を説明していただくと共に、保全と活用について討議していきたいと思えます。

■ 第1日目(16日) 開催内容・プログラム

◆ 現地検討会

集合場所：旧松代駅(松代駅跡)

交通：長野駅善光寺口で、12:15分発松代行きのバスに乗り、松代駅下車

12:30～13:00 受付

13:00～17:00 松代に残る庭園や庭園絵図の見学
 (真田宝物館、真田新御殿、旧横田家、山寺常山邸、象山地下壕)

◆ 情報交換会

17:20～19:20 こむぎ亭(長野市松代町御安町1129-2)

電話：026-274-5536

交通：長野駅善光寺口で松代行きのバスに乗り御安町下車、徒歩1分



横田家建物



横田家庭園

真田新御殿庭園
(2階より)

■ 第2日目（17日）開催内容・プログラム

- 場 所：サンホール マツシロ
 交 通：長野駅善光寺口で松代行きのバスに乗り
 長野松代総合病院下車 バス停前
 受付等
 08：40～09：00 受付開始（サホール マツシロ 2階）
 09：00～09：10 開会挨拶
 ◆研究発表会：発表各20分、質疑応答5分
 合計25分（交替時間を含む）
 09：10～09：35 失われた名古屋城の庭園を探る
 山高 佳雄
 09：35～10：00 育徳園の現状と課題5
 夏目漱石『三四郎』描かれた育徳園
 原 祐一
 10：00～10：25 アート・マーケティング発想でみる
 日本庭園：生活者調査を題材に
 森 泰規
 10：25～10：50 日本の公園の発展におけるフランス造
 園学の影響—エドワー・アンドレの理
 論と形態分析を通しての考察—
 水真 洋子
 10：50～11：15 韓国伝統庭園の現代的解釈
 洪 光杓・李 赫宰
 11：15～11：40 ジーキルの花壇デザインと日本国内の
 ボーダー花壇の現状
 宮内 泰之

- 11：40～12：05 浄住寺の庭の歴史と継承の意味
 今江 秀史
 ◆昼食休憩／理事会・総会等
 12：05～13：00 昼食休憩／理事会
 13：00～13：30 総会・シンポジウム受付
 ◆シンポジウム（総会司会企画委員会大会運営委員担当）
 13：30～13：35 開会挨拶 鈴木 久男 会長
 13：35～13：40 趣旨説明 佐々木 邦博 実行委員長
 シンポジウム司会 藤井 英二郎（千葉大学）
 13：40～14：00 栃木県足利市 大澤 伸啓（足利市）
 14：00～14：20 福井県城戸ノ内町一乗谷
 藤田 若菜
 （一乗谷朝倉氏遺跡資料館）
 14：20～14：40 京都市北区上賀茂
 今江 秀史（京都市）
 14：40～14：50 休憩
 14：50～15：10 宮崎県日南市飫肥
 仲 隆裕（京都造形芸術大学）
 15：10～15：30 長野市松代町
 佐々木 邦博（信州大学）
 15：30～15：45 コメント及び質問
 コメンテーター：鈴木 誠
 （東京農業大学）
 15：45～15：50 閉会挨拶 鈴木 久男 会長

■平成30年度 日本庭園学会全国大会研究発表の概要（申し込み時のもの）

山高 佳雄

「失われた名古屋城の庭園を探る」

概 要：1600年（慶長5年）関ヶ原の合戦で徳川家康（東軍）は勝利、天下の権力を握った。1610年（慶長15年）名古屋城の築城が始まり天守閣が完成。1615年（慶長20年）本丸御殿完成初代藩主徳川義直は1617（元和3年）二の丸御殿を完成し二の丸庭園を作庭藩主の居館とする。二代藩主光友が二の丸庭園を完成し、下御深井丸御庭・御下屋敷庭園・大曾曾御下屋敷庭園を、江戸には江戸上屋敷庭園などを作庭した。1820年頃（文政年間初頭）十代藩斉朝により二の丸庭園が大幅に改変。明治5年（1872年）に陸軍省の所轄と

なり二の丸御殿・二の丸庭園が除去された。昭和20年名古屋大空襲により天守閣・本丸御殿焼失し二の丸庭園など埋もれ荒れ果て戦後約70年間二の丸庭園・東庭園は修復されず放置されて来た。この2、3年復元・修復・再調査が始まった。この概要と調査についての発表を行います。

原 祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）

「育徳園の現状と課題5 夏目漱石『三四郎』描かれた育徳園」

概 要：明治時代、育徳園は富山藩の御殿が移築されたことから御殿山庭園と呼ばれていたが、昭和21年、東京大学新聞に「三四郎池」と書かれてから「三四郎池」の名称が定

着した。明時代以降園内の改編が行われ、三四郎が美彌子と初めて出会う場所はどこだったかわからなくなっている。漱石研究では『三四郎』の景観はほとんど検討されてないが、『三四郎』の記述から図面、写真からはわからない明治40年当時の育徳園を知ることができる。

森 泰規（株式会社 博報堂 プラント・イノベーションデザイン局）
「アート・マーケティング発想でみる日本庭園：

生活者調査を題材に」

概要：「日本庭園ランキング」として知られる北米「しおさいプロジェクト」が掲げる庭園について、日本在住の生活者1000名に対しインターネット調査を行った。基本的な認知・来訪実績・推奨意向および、それら施設を「積極保全&開示制限」の条件と、「積極活用&維持コスト利用者負担増」の条件とで対比させ、いずれを望むかの意見を把握した。その結果について共有し、議論の題材としていきたい。

水真 洋子（ヴェルサイユ国立高等造園学校附属研究所
(LAREP) 所属研究員)

「日本の公園の発展におけるフランス造園学の影響

—ド・アト・レの理論と形態分析を通しての考察—」

概要：1906年に改修された新宿御苑は、わが国初の日仏共同造園事業によって誕生した庭園であると同時に、近代造園学の先駆的な教育の場であった。そこで教示されていた築庭理論は、フランス第二帝政時代にパリ市プロムナード・緑化局によって開発された造園理論に基づいており、大正～昭和初期にかけて建設された公園・庭園にその影響を垣間見ることができる。本稿では日本近代公園の発展における仏国造園学の影響について考察する。

洪 光杓・李 赫宰（東国大学）

「韓国伝統庭園の現代的解析」

概要：韓国の伝統的庭園の継承は模倣ではなく、時間と

場所に適切な韓国的なデザインと施工に関する悩みから始まる。K-gardenとは韓国の庭園を意味するが、韓国伝統庭園のような古庭園ではなく、様式的、景観的な側面は伝統的であるが、素材、構成、施工方法は現代的に解析された庭園をK-gardenという。エストニアに造成された“無憂園”には現代的に解析された方池圓島と三神山があり、韓国の東灘に造成された“夢灘園”には巫山十二峰と水階が造成された。

宮内 泰之（恵泉女学園大学社会園芸学科）

「ジーキルの花壇デザインと日本国内のボーダー花壇の現状」

概要：19世紀末、英国の造園家ガートルード・ジーキルは、華美な園芸植物だけでなく、素朴な在来植物や多年草なども用いて、それらを立体的かつ自然風に植えこむボーダーという花壇デザインを確立した。ボーダーは日本にも導入され、今日、イングリッシュガーデン、もしくはコテージガーデンなどとも称され各地で再現されている。本稿では、ジーキルの花壇デザインの本質と、日本国内に見られるボーダーの現状と課題について考察する。

今江 秀史（京都市文化財保護課）

「浄住寺の庭の歴史と継承の意味」

概要：京都市内には、禅宗寺院の庭が数多く所在することが知られてきた。その過半数が臨済宗であり、黄檗宗の寺院の庭に関する研究は希薄であった。浄住寺は、元禄2年（1689）に葉室頼孝が鉄牛道機に要請して造営された黄檗宗萬福寺の子院である。近世の本堂と方丈等の周囲と中間には、園池を備えたものを含む6区分の庭が配される。その伽藍の成立の歴史背景と利用形態の解明に基づき、浄住寺の庭の継承の意味について検証する。

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター 1 階

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342